

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA



ニュースレター10号

2011年4月発行



作品：上田志保 撮影：大西輔夫

ミクロとマクロ

ミクロはマクロに向かいマクロはミクロに向かう

2010年9月10日(金)～11月28日(日)

この展覧会では、人が表現するカタチの大きな二つの座標に焦点を当てた企画展でした。
一つはミクロ。小さな一つのカタチを延々と積上げてゆく制作は、果てしない無限に向かうような開放感に満たされ、延々と続きます。
一つはマクロ。膨大な巨大イメージを作ってゆくと、そこには内へ

へと向かう深い内面世界への穴があります。
この二つの表現の方向性は、人が表現をする中でいつもクロスしています。

そういう感覚を、アウトサイダーとインサイダー作家の独特な作品表現を通して、楽しんでいただきまじました。

1～5 撮影：大西暢夫



1.富塚純光の展示

2.鎌江一美&上田志保の展示

3.孫雅由の展示

期間中のイベント

●9月19日(日)
平町公(出版作家)によるワークショップ「近江八幡御馳走 一番、朝鮮人街道絵地図を作りましょう」
●10月9日(土)
トークショウ
はたよしこ
(本展企画者)
●10月31日(日)
トークショウ
秋元雄史
(金沢21世紀美術館館長)
秋元雄史(金沢21世紀美術館館長)によるトーク・現代アートシーンの中でのアウトサイダーアートの魅力とは?



NO-MAから本願寺別院までの「朝鮮人街道」を歩く参加者たち

このワークショップでは、平町公さんの風景取材の方法に習い、ポードレス・アートミュージアムNO-MAの前の通り「朝鮮人街道」をフィールドワーク

験が絵巻に反映されて個性的な作品が数々生まれました。絵の中に、ワークショップをしている15人を想定して描きこむ人。「だったら、参加者は自分が何番目なのかかわかるようにして絵のように行列してみよう」と提案してくれる人など、道中楽しいアイデアの交換も。参加者の小学生は、「家族で福山の軒の浦に行ったことがあり近江八幡と町並みが似ています」などなど、「歴史好きの兄も参加したら面白かったのになー」とか、思いも様々に道中進みました。絵の好きな子どもたちや美大生、一般の美術愛好家など、様々な参加者たちののどかなやりとり。歴史的建造物群保存地区の町並みを通信使になったつもりで歩きました。終着地点、本願寺別院では通信使正史が使用した部屋でワークショップの仕上げをしました。参加者は歴史の中ですっかりタイムトリップしたようでした。

4.鎌江一美作品

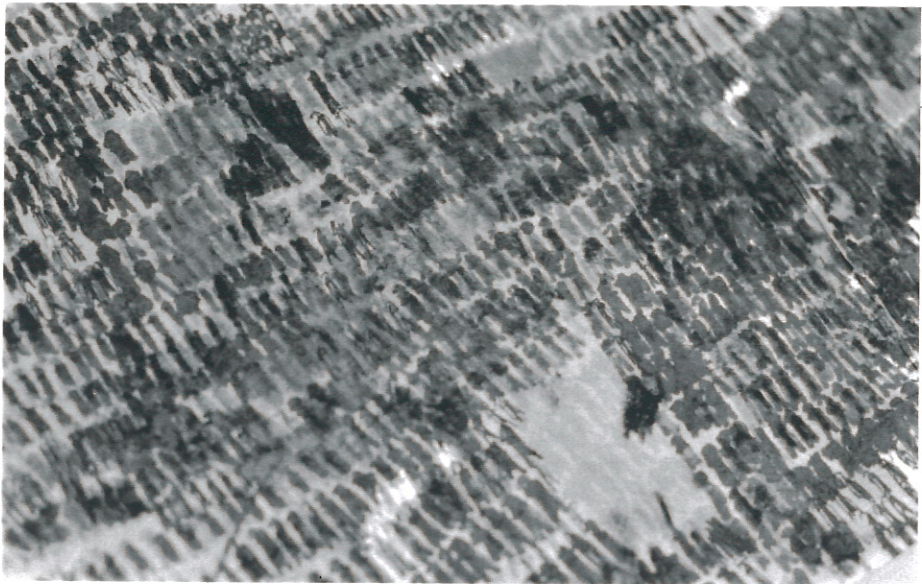
ミクロとマクロ展は岩手県に巡回開催しました

2010年12月9日(木)～1月18日(火)

開催場所

第一会場「るんびにい美術館」(岩手県花巻市)

第二会場「湯本美術展示館」(岩手県花巻市)



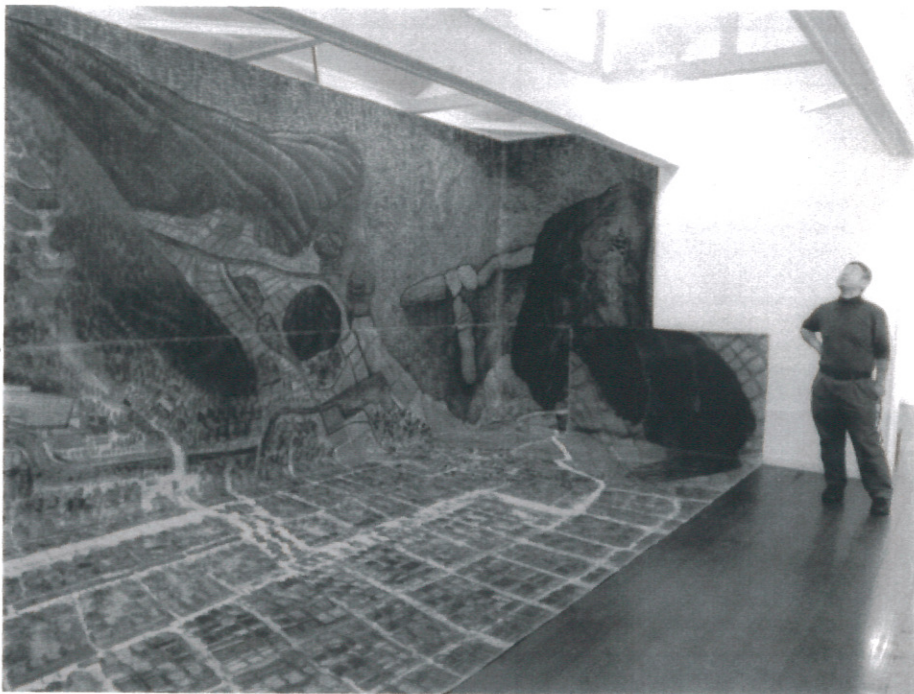
5.上田志保作品

期間中のイベント

●12月11日(土)トークショウ
「ポードレスアートの楽しみ方」
齋正弘(宮城県美術館学芸員)×板垣崇志(るんびにい美術館ディレクター)／聞き手 はたよしこ
齋「自分の表現を美術として皆に見てもらおう、という行為には障害の有無の問題は存在しない。私はこのように世界を見ている。ただそのことを真摯に描いているかどうかだけが、問われるのだろう。」
板垣「この宇宙に心が存在しなかったなら、そこに表現はあるか?と私はいつも考えます。」
一見難しいテーマを、大爆笑も交えながら納得できる境地にまで導いていただいた、深くて楽しいトークショウでした。



齋正弘(宮城県美術館学芸員)×板垣崇志(るんびにい美術館ディレクター)によるキャサリートーク



平町公の展示/湯本美術展示館



ムラギシマナヴ&吉田格也の展示/るんびにい美術館

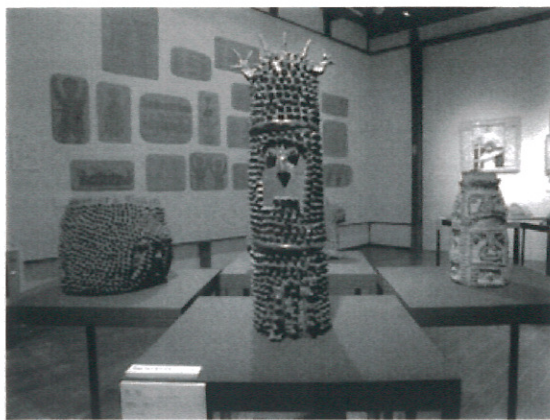
【出展作家】
孫 雅由 (京都府 故人)
上田志保 (岩手県在住)
平町 公 (神奈川県在住)
富塚純光 (兵庫県在住)
鎌江一美 (滋賀県在住)
吉田格也 (兵庫県在住)
ムラギシマナヴ (京都府在住)

収蔵展十

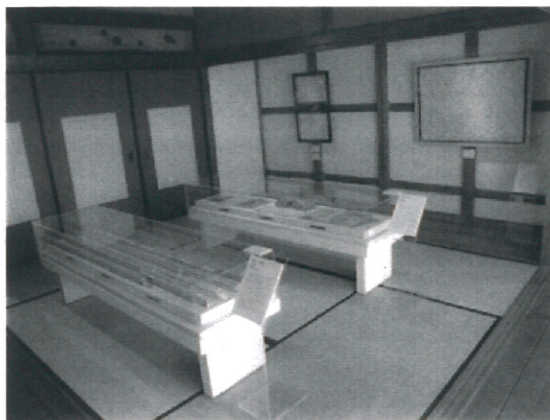
2011年5月1日(土)～8月15日(日)



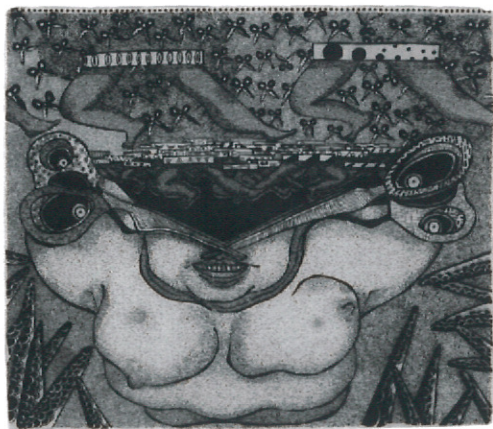
水谷伸郎作品



手前は澤田真一 後ろは小幡正雄の作品



2階展示風景



鮎万里絵作品 撮影：大西暢夫

この企画展は、パリの展覧会「ART BRUT JAPONAIS (2010年3月24日～2011年1月2日/パリ市立アル・サン・ピエール美術館)」に出品した63名の作家のうち「7人の日本のアール・ブリュット作家」による展覧会でした。NOMA及びNPO法人はれたりもつたりが作品を収蔵している作家たちです。すでに他界された作家などを含め、日本を代表する作品をご覧いただきました。

【出展作家】
 岩崎 司(岩手県 故人)
 小幡正雄(兵庫県 故人)
 澤田真一(滋賀県在住)
 鮎万里絵(長野県在住)
 高橋和彦(岩手県在住)
 水谷伸郎(東京在住)
 山崎健一(新潟県在住)
 吉澤 健(東京在住)

ing...障害のある人の進行形

第7回滋賀県施設合同企画展

2010年12月11日(土)～2011年1月16日(日)

「身の周りにあるもの、見落としがちな光景をアートとして見ることで視点が変わりそうです」「作品自体は本当に素晴らしいものですが、それをきちんと作品として扱えるスタッフの方々の思いに感動した。その思いは人に対する思いだと感じ、



1階展示風景

久米すゑ子(湖北まこも)



寺田美智夫(びわこ学園医療福祉センター野洲) 撮影：大西暢夫

とても柔らかい気持ちになった。...これらの感想に、この展覧会の内容が集約されています。

障がいのある人を支援している施設スタッフが実行委員会を組織し、企画、運営する滋賀県施設合同企画展は7回目を迎えました。今回は25名、214点が出展され、新たな参加施設も4施設ありました。



森田郷史(やまなみ工房)

飼っていた猫の絵を描き、その猫を守るように広告紙やリボン、木の枝などをどんどん貼り重ねた森さやかさん(唐崎やよい作業所)の作品や、日々、プロ野球の試合結果や放送局、解説者を丹念にメモ帳サイズの紙に書き、日付と曜日に合わせて貼り合わせ続け、展示間際まで作品サイズが伸び続けた大山康博さん(バンバン)の作品など、ひと言では言い表せない作品が揃いました。オリジナルな手法による和紙と色画用紙のちぎり絵を出展した藤田千香子さん(若竹作業所)が、周りの人たちにちぎり絵を贈って誕生日をお祝いしたり、思いを伝えることがあるというエピソードにヒントを得て、展覧会最終日には貼り絵でオリジナルカードを作るワークショップ

期間中のイベント

●6月19日(土) キャラリートーク
 「作品発見の現場秘話」はたよしこ

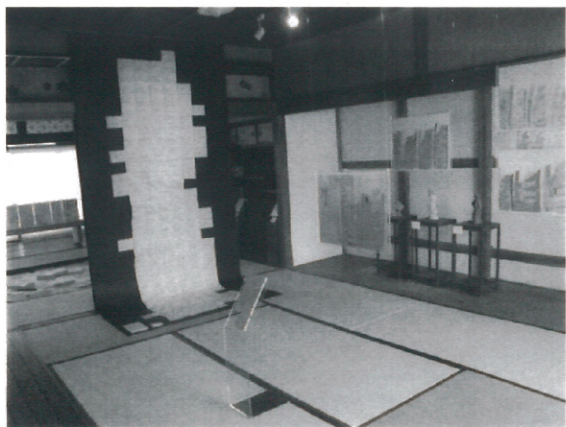


どのようにしてこの不思議な作品が誕生したのか、制作現場に詳しいはたディレクターの画像付きのトークは、多くの人達が興味深々でした。

●7月31日(土) キャラリートーク
 「誰にでもわかるキャラリートーク」
 山田祥子(NOMAスタッフ)



スタッフ山田祥子による、楽しいキャラリートークはワクワク。



2階展示風景 / 左は大山康博(バンバンの作品)

を開催しました。思い思いのカードを創りにみなさん夢中になっていました。また、今回は滋賀県合同企画展初の図録を発行することが叶いました。この図録は、NOMAでの購入も可能です。

【出展施設】

ウッディ伊香立/滋賀県立近江学園/障害者福祉サービス事業所おおぎの里 唐崎やよい作業所/若竹作業所/クリエイトプラザ東近江マイルド五福荘/ステップアップ21/湖北まこも/さくらほうす/信楽性青年寮/滋賀県立信楽学園/障害者支援事業所いきいき/バンバン/彦根学園/びわこ学園医療福祉センター野洲/蜚の里/やまなみ工房

農ライフ農アート

NO-MAが地域に開かれた美術館となることをめざして、近江八幡市の歴史遺産や自然を生かしたアートプログラムを2007年度より展開しています。



楽しかったシードボール作り

「農ライフ農アート」展の対談
地域交流とアート
「まちつかい」はいますか？

藤浩志(アーティスト)
小暮宣雄(京都橋大学教授)

NO-MA地域交流の今後について、ヒントを探るべく両名をお招きして、表題の対談を行いました。大変興味深い話が目白押しの一時間半でしたが、紙面の都合もあり、ほんの一部をご紹介します。

藤 僕の中で「地域交流」という言葉に違和感があります。(笑) 個人的に交流という言葉が苦手です。協力という言葉なら腑に落ちるのですが、
小暮 なるほど。何となく表面的な感じがするんですね。
藤 協力という言葉には共に時間を過ごし、一緒にプログラムを作っていく積極的なイメージがありますが、交流と言うと

言葉のイメージとして薄い感じがするので。たとえばNO-MAが地域の何に「興味」を持ち、「何と」対話をし、「何を」作ろうとしてきたか。また誰が主体的になつて、誰と、何を生み出そうとしているか。そのことに興味があります。それを捉える上で「地域交流」といわれても違和感があるという事です。「地域協力」なのではないかと。

〔中略〕

藤 金沢21世紀美術館とかが成功しているのは作品のイメージがあるからだと思います。「ここに行けば必ずこういうものがある」というイメージです。箱根の彫刻の森美術館も、「彫刻がたくさんある」というイメージがあるのでいい集客です。そこに行けば日常から離れ、遠くに連れて行ってくれる「特別な何かがある」イメージが大切なのだと思います。

藤 例えはお客様が近江八幡に来るとします。そのときにどこに連れていくのかということも重要だと思います。美味しい食堂に連れていった後にNO-MAに連れて来るかどうかという話です。

藤 ここにしかない何かがあると、見に来ますから、そこで具体的に接点ができます。それは小さいものでも面白い現象でも人でもいいかもしれません。福岡の場合は金印というものがあつた。あれもわずかに数センチのものです。とにかく、近江八幡に住んでいる人、来る人とNO-MAとの接点をつくる仕掛け方は具体的なイメージにあると思つています。

小暮 それはアートツーリズムの話と関係してありますか？

藤 美術館とかギャラリーというのは、イメージがエンブレムであるという現実の話です。「そこに行つても何も無い。地元の人はずいぶん見られるものです。アート好きの人は、何かここで新しい出

会いがあるかもしれないという期待をしていくですが、多くの人はそうではないという話です。

小暮 アドバイスをありがたう言います。ところで地域交流事業で、交流という言葉はちょっと置いておいて、次はどうしたらいいでしょうか。

藤 僕がよく話すのはOS説です。OSというのはプログラムを発生するための基本システムです。こういう場所というのはOSを作るべきだと思つていて、プログラムは自分で作つてはいけないのではないかと思つています。

小暮 ここ自身はプログラムを作らない。作つてはいけない。例えば、場を運営する側は、細かいプログラムを作りすぎるべきではない。もちろんこれは仮説です。しかし、デモンストレーションは必要です。「こういうことができますよ！」というアピール。地域の人たちの表現意欲をかきたてて、場の利用イメージを拡張するデモンストレーションは必要です。それよりも重要なのは地域の人たちがプログラムを持ち込める機会を作ることだと思つています。例えば、先程話のあった泥団子？

小暮 シードボールです。
藤 このプログラムを誰が作つたかというところが実はとても重要です。もし、それが地元から出てきていたら素晴らしいことだし、それをデモンストレーションとして、そこからの連鎖で広がるいろいろなアイデアを受け入れる間口とか余地のようなものが、地元のモチベーションを持つた人たちに開かれているかということが重要です。

いいOSが整備されると地元のあらゆる興味深い活動が動き始めます。それに対してオープンに懐深く受け入れつつ、関係を深める態度が大切だと思つています。

助成：日本財団

農家探検KIKIGAKI

誰にでも分かるギャラリートーク

- 7月31日(土) 「収蔵展+」 解説者：山田祥子(NO-MA)
- 9月25日(土) 「ミクロとマクロ」 解説者：はたよしこ(NO-MAアートディレクター)
- 12月18日(土) 「第7回滋賀県施設合同企画展」 解説者：前田佳奈、岡本聡 (第7回滋賀県施設合同企画展実行委員)
- 2月26日(土) 27日(日) 「ココロの景色」おはなし会&ワークショップ 解説者：小林瑞恵(本展ディレクター)

農ライフ農アート

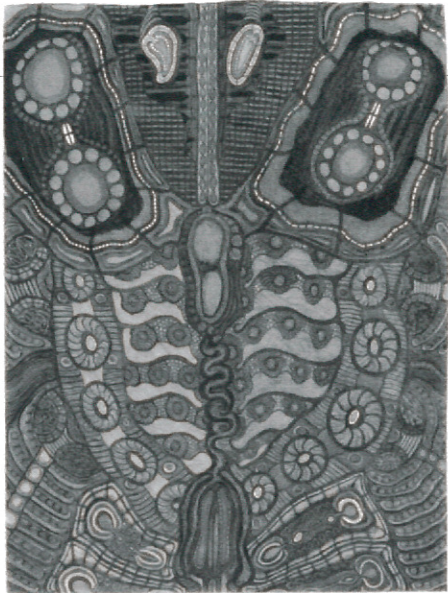
- 8月28日(土) 「シードボール、シードペーパーを作ろう!!」
- 10月2日(土) 「農園体験 KIKIGAKI コラージュに挑戦!!」
- 2月8日(火)~2月13日(日) 「農ライフ農アート展」
- 2月12日(土) 関連イベント
 - ・ディスカッション「地元で遊び楽しむ農ライフ・農アート」 出演者：井上政美(やさしい工房INOUE)、清原久美子(ライター)河合嗣生(ランドスケープデザイン・アトリエ風)
 - ・トーク：「これまでの地域交流事業について」 出演者：藤本エリカ(NO-MA)
 - ・対談：「地域交流とアート-まちつかいはいますか?」 出演者：藤浩志(アーティスト)×小暮宣雄(京都橋大学教授)
 - ・ライブ：近江ビピンクラブ

C O C O R O - K E S H I K I

ココロの景色

2011年2月19日(土)~5月29日(日)

1~4撮影：大西暢夫



1. 格野門作品

「自分とは、いったいどういう存在なんだろう。」
「自分にしかないものは、どこにあるの?」
自分が作る「心の景色」。未だカタチをもたないそれを、見えるカタチにすること。
そうせずにはいられない、強い何かに押し出されるように生まれる表現。
本展では、そのようにして生まれた6人の作品に焦点をあてました。美術教育や流行とは無縁な独自の手法によって、深く、強く、しなやかな、心の内面力が様々なカタチとなつて、観る人を魅了しています。ぜひ一瞥ください。



2. 西村一成作品展示(蔵)



3. 飯塚政暁作品展示(2階)



4. 佐藤朱美作品展示(1階)

期間中のイベント

- 2月26日(土)と2月27日(日) おはなし会&ワークショップ 「ココロのけしき」 小林瑞恵(本展企画者)
- 3月30日(水) 18時30分~19時30分 夕暮れNO-MA de ギャラリートーク はたよしこ(本展企画者)



本展ディレクター小林瑞恵のギャラリートーク



「ココロの景色」を描いてみよう、というワークショップ。鑑賞者の方々も思い思いの心をカタチにしてくださいました。



今回はじめて、雰囲気ガラリと変わって夜のギャラリートーク。少し寒い中、熱心なファンの方々が集まってきました。

【出展作家】

- 格野 門
- 西村一成(愛知県在住)
- 山田七菜子(大阪府在住)
- 佐藤朱美(北海道在住)
- 飯塚政暁(滋賀県在住)
- 江中裕子(埼玉県在住)

助成：日本財団

ココロの景色展イベント案内

- ・ドキュメンタリー映画上映「破片のきらめき - 心の杖として鏡として -」
- ・アフタートーク「精神科病院での芸術活動 - “癒し”としての自己表現」 安彦講平(平川病院〈造形教室〉主宰)

4月16日(土)

時間:13時30分~16時

場所:尾賀商店
(近江八幡市永原町中)

参加費:無料 定員:50名

日本では先駆的な、精神科病院でのアトリエ活動。そのドキュメンタリー映画からは、「人が何故表現をするのか」についての多くのヒントを感じ取ることができます。(2008年第14回(仏)ウズール国際アジア映画祭観客賞受賞)アトリエの主宰者、安彦講平氏によるアフタートークが聴けるのもまたとないチャンスです。

・トークショー

「ココロと表現」 小林昌廣(IAMAS情報科学芸術大学院大学・教授)

5月15日(日)

時間:13時30分~15時30分

場所:尾賀商店
(近江八幡市永原町中)

参加費:無料 定員:50名

大阪大学医学部を卒業し、現在は IAMAS 情報科学芸術大学院の教授。医学とアートを結びつけるお話は、舞台芸術や古典芸能など広範囲に渡り、面白く分かりやすい展開で、すっかり魅了されるでしょう。



すべて要予約

予約先:ボーダレス・アートミュージアム NO-MA TEL&FAX:0748-36-5018 email:no-ma@lake.ocn.ne.jp

「アール・ブリュット・ジャポネ」展の日本国内巡回展

2010年3月24日~2011年1月2日までパリで開催されておりました「アール・ブリュット・ジャポネ」展の国内巡回展が各地で決定しています。

福岡アジア美術館でパリ展出品作品による企画展が開催されました。

ART BRUT JAPONAIS

埼玉県立近代美術館

4月9日(土)~5月15日(日)

住所:〒330-0061
埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-30-1
URL: <http://www.momas.jp/index.html>

新潟市美術館

7月16日(土)~8月28日(日)

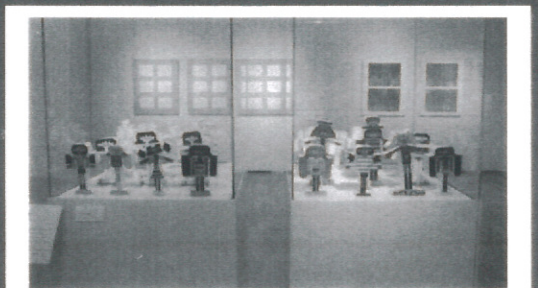
住所:〒951-8556
新潟市中央区西大畑町 5191-9
URL: <http://www.ncam.jp/index.html>



福岡アジア美術館

「アール・ブリュット in FUKUOKA」

2011年3月11日(金)~4月10日(日)



ポップなテイストの紙人形を大量に作り続ける、鹿児島在住の石野敬祐さんの作品など約200点が展示されました。

※2011年3月現在